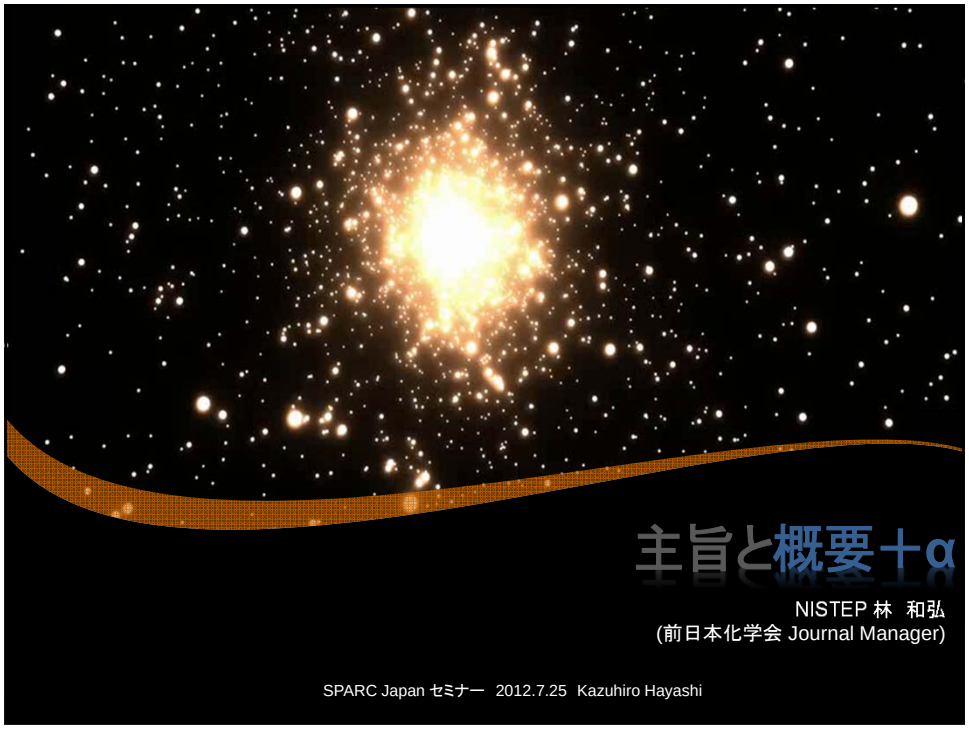
「平成25年度 科学研究費補助金
（研究成果公開促進費）改革」
第3回 SPARC Japan セミナー2012
平成24年7月25日（水）
SPARC Japan セミナー 2012.7.25 Kazuhiro Hayashi


主旨と概要＋α
NISTEP 林 和弘
(前日本化学会 Journal Manager)
SPARC Japan セミナー 2012.7.25 Kazuhiro Hayashi

平成25年度 科学研究費補助金（研究成果公開促進費）改革

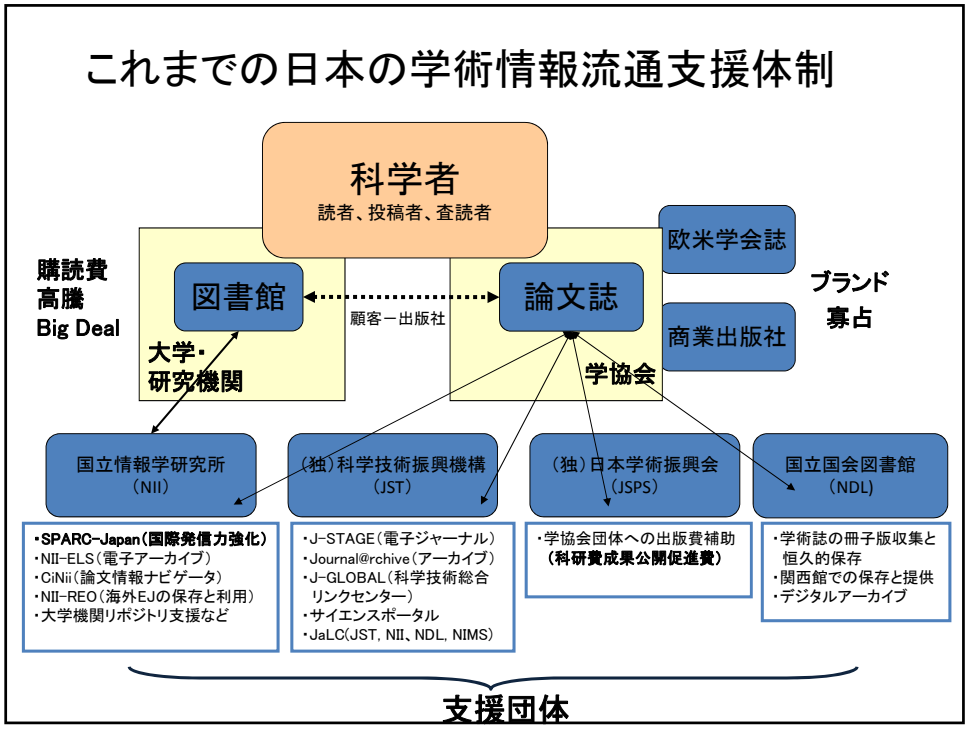
背景と現状

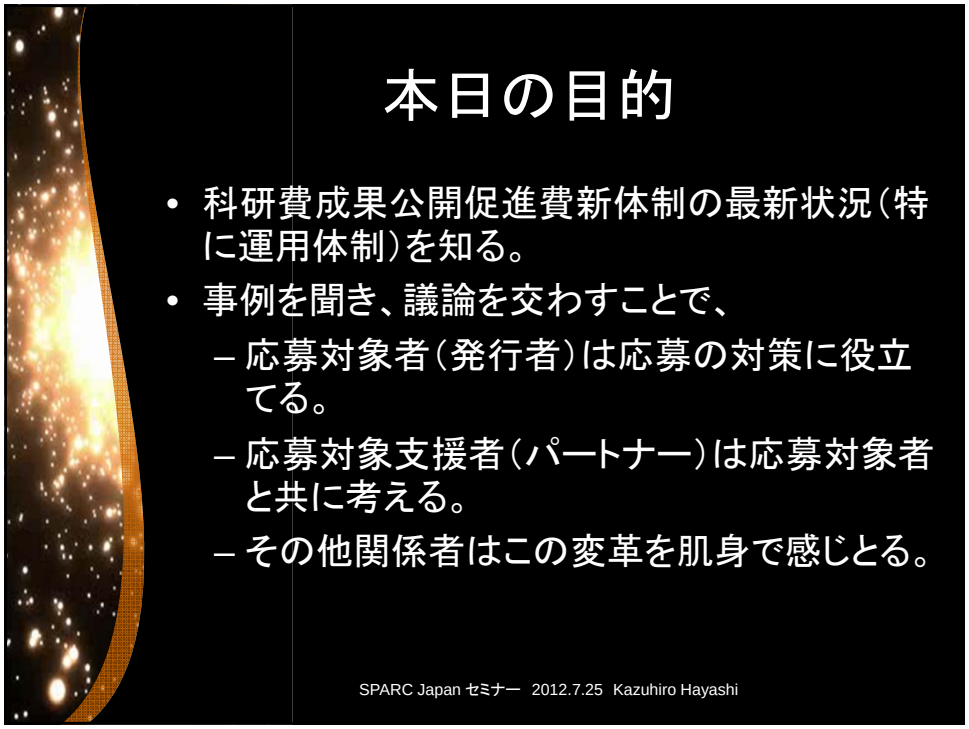
科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会の議論の要点

- 学術情報基盤の整備は（いつでも）不可欠
- ITインフラ、電子ジャーナルを前提とした情報流通づくり
- オープンアクセス対応の重要性

- 日本の研究レベルと、情報発信レベルの乖離
- 電子ジャーナルの育成、世界をリードする国際発信拠点化が遅れている
- オープンアクセスへの実証的対応も遅れている

SPARC Japan セミナー 2012.7.25 Kazuhiro Hayashi


これまでの日本の学術情報流通支援体制
科学者
読者、投稿者、査読者
購読費
高騰
Big Deal
図書館
顧客－出版社
論文誌
欧米学会誌
商業出版社
ブランド
寡占
大学・
研究機関
学協会
国立情報学研究所
（NII）
（独）科学技術振興機構
（JST）
（独）日本学術振興会
（JSPS）
国立国会図書館
（NDL）
・SPARC-Japan（国際発信力強化）
・NII-ELS（電子アーカイブ）
・CiNii（論文情報ナビゲータ）
・NII-REO（海外EJの保存と利用）
・大学機関リポジトリ支援など
・J-STAGE（電子ジャーナル）
・Journal@rchive（アーカイブ）
・J-GLOBAL（科学技術総合
リンクセンター）
・サイエンスポータル
・JaLC(JST, NII、NDL, NIMS)
・学協会団体への出版費補助
（科研費成果公開促進費）
・学術誌の冊子版収集と
恒久的保存
・関西館での保存と提供
・デジタルアーカイブ
支援団体


本日の目的
• 科研費成果公開促進費新体制の最新状況（特に運用体制）を知る。
• 事例を聞き、議論を交わすことで、
– 応募対象者（発行者）は応募の対策に役立てる。
– 応募対象支援者（パートナー）は応募対象者と共に考える。
– その他関係者はこの変革を肌身で感じとる。
SPARC Japan セミナー 2012.7.25 Kazuhiro Hayashi

本日の演者

◆小山内　優：学術定期刊行物助成制度（科学研究費補助金：研究成果公開促進費）改革の方向について

–新しい制度設計の内容と運用体制（応募、審査）の紹介

◆山下　和子：学会ジャーナルのプロモーション活動：報告とこれから

–学協会連携の意義と必要性を事例から

◆菊池　誠：科学基礎論学会における欧文誌刊行の現状と問題点

–人文社会学系学会における欧文誌刊行の現状と改革への取り組み

SPARC Japan セミナー　2012.7.25　Kazuhiro Hayashi

国際情報発信力強化

A Typical STM Journal in Japan

20-30学会程度のプロファイリングから見える像

- その学会の看板英文ジャーナル
- 日本ではその分野を代表
- 世界でも知名度は中程度以上であるが、トップジャーナルではない
- 編集委員、審査員は日本人が多い
- 日本の先生（会員）からの投稿には偏りがある（出す先生と、出さない先生）[終了後追記：日本の雑誌を引用しない]
- 海外からの投稿も電子投稿で増えたが、実入り（掲載）が少ない
- 論文誌事業で「稼ぐ」ことが難しい
- 冊子は売っているが、電子ジャーナルはフリー(OA)

SPARC Japan セミナー 2012.7.25 Kazuhiro Hayashi

国際発信力強化と言えそうなこと

- 編集：編集委員、審査員の国際化と強化/英文コンテンツの質の向上(Language Editing)/有力な研究者とのネットワークづくり
- 制作：国際標準的な電子ジャーナルサービスを実現できる出版体制（速さとコストにおいて効率の良いメタデータ(XML)作成）
- 公開：適切なプラットフォーム選び、ないしはその強化によるビジビリティの向上
- 広報：図書館、研究者に対する気づきの仕組みとネットワークづくりによる信頼関係（ブランディング）づくり
- ビジネス：事業を回し、改善のための投資を含む資金繰り/提携出版社との交渉

SPARC Japan セミナー 2012.7.25 Kazuhiro Hayashi

得られるアウトプット

- 高いビジビリティ
  - EJアクセス数の向上
- 高いインパクト
  - 知名度の向上
  - Impact FactorやScimargo等の雑誌指標のアップ
  - Altmetrics
- 事業性の改善
- 科学者に対する信頼の獲得
  - その情報を得ることで自分の研究に役立つ場
  - そこに安心して研究成果を出せ、一定の見返りが期待できる場の構築

SPARC Japan セミナー 2012.7.25 Kazuhiro Hayashi

オープンアクセス

- 実質的にGold OA化（雑誌自体がOA化）が支援対象
- ビジネスモデル（収入）は、著者支払い（APC Article Processing Charge)、会費充当、広告くらい
- 支援期間内の活動内容と支援終了後の事業性の担保
- 購読費モデルからの転換はどうするか

- OAメガジャーナル化の道はないのか
- OAメガジャーナルプラットフォームへの参入はありなのか

- 支援（お金）のためにOA化では本末転倒
  - なぜOAにするのか

SPARC Japan セミナー 2012.7.25 Kazuhiro Hayashi